

iPS 細胞研究WGの設置について

平成 20 年 1 月 29 日
基本政策推進専門調査会

1. 主旨

先日、京都大学山中教授が人工多能性幹細胞（iPS 細胞）の作成に成功した。これは、再生医療への利用が期待されている胚性幹細胞（ES 細胞）で問題とされている免疫反応や倫理面などの問題も回避、軽減されることより早急な臨床応用が期待される。一方で、iPS 細胞については、現時点では想定できないリスクの発現の可能性も否定できない。しかし、日本発のこの技術を世界に先立って確立するためには十分なバックアップ体制の構築と研究の進捗状況を踏えたルール作り等が不可欠である。

総合科学技術会議では、総合的・基本的な科学技術政策の企画立案及び総合調整を行う目的とした「重要政策に関する会議」というその位置づけから、iPS 細胞研究 WG を立ち上げ、iPS 細胞研究を円滑に進めるための環境づくりを行っていくこととする。

2. 検討内容

iPS 細胞研究に関して、以下の項目について検討を行っていく。

- (1) 包括的な iPS 細胞研究の進め方、研究体制の整備について
- (2) 研究の進捗状況に応じて、臨床研究の指針等のガイドライン類の整備と、各省調整について
- (3) iPS 細胞研究に関連した知財の保護とその支援方策について
- (4) iPS 細胞関連研究の国際動向について

3. WGメンバー

座長	本庶 佑	総合科学技術会議議員
	薬師寺 泰蔵	総合科学技術会議議員
	金澤 一郎	総合科学技術会議議員（日本学術会議会長）
	西川 伸一	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長
	高橋 淑子	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授
	土屋 利江	国立医薬品食品衛生研究所療品部長
	浅野 茂隆	早稲田大学先進理工学部特任教授
	須田 年生	慶応大学医学部教授
	平井 昭光	レックスウェル法律特許事務所代表パートナー
	森崎 隆幸	国立循環器病センター研究所バイオサイエンス部長

※その他の総合科学技術会議議員は、アドバイザーとして、随時参加。

4. スケジュール

1月10日	第1回WG
2月～	月1回程度の会議開催
6月頃	第一次取りまとめ
6月以降	研究の進捗状況を見ながら、必要に応じて引き続き検討を継続